



調査の様子※1

志津川湾が潜在候補地に選定された背景には、以前から南三陸町を訪れた多数の研究者や町の職員による研究成果が蓄積されていたという経緯があります。これまでの地道な調査から、志津川湾には、動物553種、海藻・海草類208種の生息が確認され、生物多様性の高さが科学的に示されています。

これらの活動の成果が実を結び、2018年10月18日、志津川湾はラムサール条約事務局が管理する「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に正式に掲載されることになりました。

ラムサール条約 湿地登録への 流れ

年	月	日	出来事
1979	3	30	南三陸金華山国定公園 指定
2001	12	27	志津川湾 環境省「日本の重要湿地500」に選定
2010	9	30	志津川湾 環境省「ラムサール条約湿地潜在候補地」に選定
2011	3	11	東日本大震災発生
2013	5	24	陸中海岸国立公園 三陸復興国立公園へ改称
2015	3	31	南三陸金華山国定公園 三陸復興国立公園へ編入
2016	10-12	月	登録に向けての住民説明会（全18回）開催
2016	12	18	南三陸の森・里・海とラムサールシンポジウム 開催
2017	3	27	南三陸町から環境省へ登録の申し入れ
2018	1	30	南三陸町ラムサール条約シンポジウム 開催
2018	3	27	南三陸町沿岸（志津川湾） 三陸復興国立公園 海域公園地区に指定
2018	10	18	志津川湾 ラムサール条約湿地に登録
2018	10	23	ラムサール条約締約国会議にて認定証授与 in ドバイ（アラブ首長国連邦）



ソメワケウミクワガタ



ダンゴウオ



クチバシカジカ

日本のラムサール条約湿地

今回のラムサール条約締約国会議により、南三陸町の志津川湾と東京都の葛西海浜公園が新たに登録され、日本のラムサール条約湿地は52カ所となりました。

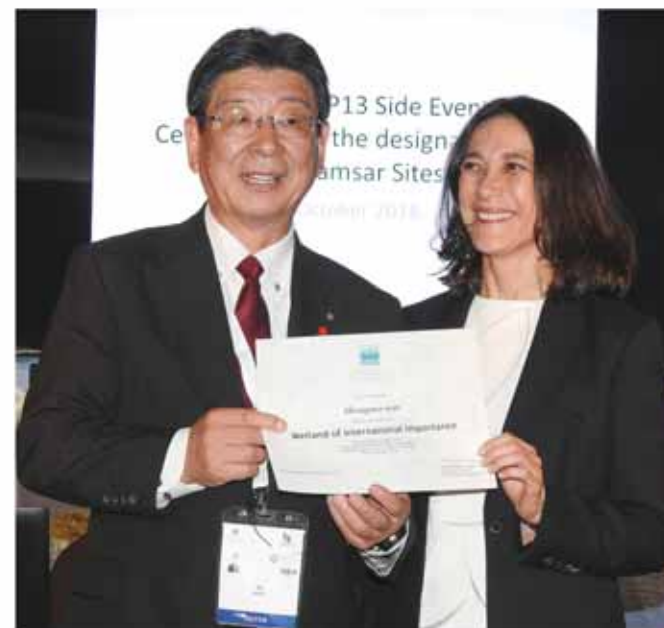
宮城県内には志津川湾のほかに伊豆沼・内沼（栗原市・登米市）、蕪栗沼・周辺水田（栗原市・登米市・大崎市）、化女沼（大崎市）の3つのラムサール条約湿地があります。東北地方にはこれ以外に仏沼（青森県三沢市）、大山上池・下池（山形県鶴岡市）、尾瀬（福島県檜枝岐村など）がラムサール条約湿地に登録されています。

こうした条約湿地と肩を並べ、志津川湾も「世界の志津川湾」となりました。今後、国内はもとより世界の条約湿地との交流を深め、その魅力や価値を発信し、再確認していくことが期待されます。



ラムサール条約湿地位置図

志津川湾



環境省提供



これまでの取り組み

ラムサール条約湿地登録への取り組みは、志津川湾が2010年9月に環境省のラムサール条約潜在候補地に選定されたことに始まります。寒流と暖流両方の影響をバランスよく受ける志津川湾は、冷たい海に住むコンブの仲間「マコンブ」と暖かい海に住むコンブの仲間「アラメ」が作る海藻の森（藻場）が共に見られる珍しい海です。志津川湾はマコンブの分布の南限に近く、またアラメの分布の北限に近いことから、世界的にも貴重な環境となり、このことが、ラムサール条約潜在候補地に選ばれた理由の1つです。

しかし、翌年2011年3月11日、東日本大震災により南三陸町は大きな被害を受けました。そのため、登録に向けた活動を中断せざるを得ませんでした。震災から5年後の2016年には、ラムサール条約湿地への登録へ向けた活動が再開されました。住民説明会やシンポジウムでは、多くの皆さんからの賛意をいただきました。

また、南三陸町の豊かな自然を生かした持続可能なまちづくりの一環として、志津川湾の豊かさを未来の世代に伝えていくためのさまざまな教育・啓発活動も実施してきました。

特集

南三陸町の海「志津川湾」が ラムサール条約湿地に 登録されました

10月18日、歌津・志津川・戸倉の海域を含む南三陸町の海「志津川湾」が、ラムサール条約湿地として正式に登録されました。そして同月23日にドバイ（アラブ首長国連邦）で開催されたラムサール条約締約国会議において、認定証が授与されました。日本で52番目のラムサール条約湿地です。東北地方では初の海域の条約湿地であり、海藻の森＝藻場の貴重さが認められての登録は国内で初めてとなります。

志津川湾のラムサール条約湿地への登録は、町内外そして全国の多くの皆さんにご協力をいただき実現しました。

今回は、志津川湾がラムサール条約に登録されるまでの活動やこれからの取り組みなどを紹介します。



マコンブ

アラメ



2016年「南三陸の森・里・海とラムサールシンポジウム」の様子



2018年「南三陸町ラムサール条約シンポジウム」の様子